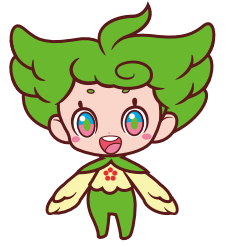




# FUKUOKA



## 福岡県立太宰府特別支援学校における教育活動



知的障がい教育部門 小学部 芸術鑑賞



知的障がい教育部門 中学部 教科学習



知的障がい教育部門 高等部 作業学習



肢体不自由教育部門 体育 ボッチャ

## CONTENTS

### 教育の広場

なぜ「地域とともにある学校づくり」と  
「学校を核とした地域づくり」は一体的に推進すべきなのか  
国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官  
(併) 社会教育実践研究センター 社会教育調査官 志々田 まなみ …… 1

### 特集

令和2年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に  
ついての点検及び評価(令和元年度対象)の概要 [総務企画課] …… 3  
令和2年度「ふくおか教育月間」記念行事 [総務企画課] …… 8  
令和2年度 福岡県教育文化表彰 [総務企画課] …… 10  
うきは市教育委員会におけるオンライン学習スタートアップ [義務教育課] …… 11  
令和2年度福岡県とびうめ教育表彰 [教職員課・高校教育課・義務教育課] …… 13

### 社会教育情報

地域のニーズに応える図書館へ [大木町図書・情報センター] …… 16

### 学びの現場から

大切にしていること [直方市立植木小学校 教諭 吉浦 章子] …… 18  
生徒の力を伸ばす指導改善の取組 [福岡県立香椎工業高等学校 教諭 岩谷 誠一] …… 19

### 県立学校の特徴ある取組

「学びをとめない」～新型コロナウイルス感染拡大防止のための  
臨時休業中に実施した214講座の同時双方向型オンライン授業  
[福岡県立戸畑高等学校] …… 20

令和3年度から令和6年度使用中学校用教科用図書の採択の概要と採択結果  
[義務教育課] …… 22

ふくおか学びの応援サイト [福岡県教育センター] …… 24

令和2年度「専門研修(キャリアアップ講座・ミドルリーダー養成講座)」  
代替コンテンツ「オンデマンド講座」の配信 [福岡県教育センター] …… 25

「調査研究・特命課題研究」成果の活用 [福岡県教育センター] …… 26

お知らせ  
教職員課/文化財保護課/社会教育課/福岡県体育研究所/  
福岡県立図書館/九州歴史資料館/放送大学福岡学習センター/  
福岡県青少年科学館 …… 28

九州歴史資料館 展示品 名選 No.47 [九州歴史資料館]

「教育福岡」はホームページ上で  
見ることができます。

福岡県

検索

教育委員会>総務企画課>「教育福岡」をクリック

<九州ロゴマーク>

「九州の連携」を象徴し、  
「九州はひとつ」を表現  
しています。



# PHOTO NEWS

[フォトニュース]

## 11/16 青豊高校陸上競技部、八屋中学校陸上競技部 教育長表敬訪問

青豊高校の伊藤彩香さんが JOC ジュニアオリンピックカップ全国高等学校陸上競技大会 2020兼 U20全国陸上競技大会の高校女子100mハードルにおいて優勝したことを報告するため、また、豊前市立八屋中学校の漕上翔太さんが JOC ジュニアオリンピックカップ全国中学生陸上競技大会2020の男子110mハードルにおいて優勝したことを報告するため、城戸教育長を表敬訪問しました。



## 11/23 令和2年度「ふくおか教育月間」記念行事

「ふくおか教育月間」の制定を記念し、アクロス福岡で記念行事を開催しました。

また、記念行事では、令和2年度福岡県教育文化表彰表彰式を行いました。

記念行事及び表彰式の詳細は、特集（8～10ページ）に掲載しています。



## 11/27 令和2年度福岡県総合教育会議

知事と教育委員が会し、「学校教育のICT化」、「不登校への取組み」及び「福岡県文化芸術振興基本計画」を議題として、本県の教育施策の推進などについて意見交換がなされました。



## 今月の表紙「元気いっぱい子どもたち」

「光り輝く存在として 社会を生き抜く！」（福岡県立太宰府特別支援学校）

本校は、平成24年4月に開校した、知的障がい及び肢体不自由のある児童生徒（小中高）を対象とした特別支援学校です。今年度は450名（知的障がい教育部門376名、肢体不自由教育部門74名）の児童生徒が学習しています。（5月1日現在）

卒業後の自立と社会参加を目指し、光り輝く存在として社会を生き抜く児童生徒を育成することを目標に教育活動を行っています。教育活動の特色としては、小・中学部段階での教育的ニーズに応じた教育課程、高等部段階での進路ニーズに応じたコース制、近隣の学校や地域との交流及び連携です。今年度は新型コロナウイルス感染症により、多くの行事が変更になっていますが、児童生徒は感染防止対策を取りながら生き生きと活動しています。

来年度は創立10周年を迎える節目の年となります。児童生徒と教職員が共に日々の学習活動や学校行事などに取り組み、本校の伝統を築き上げています。



## なぜ「地域とともにある学校づくり」と

## 「学校を核とした地域づくり」は一体的に推進すべきなのか

国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官  
(併) 社会教育実践研究センター 社会教育調査官

志々田 まなみ

### はじめに

「被災地では多くの学校が避難所となり、子どもの学びの場としてだけではない、地域の礎（岩）としての学校が確かに存在していることを目の当たりにしたとき、学校は地域

において最も安全で安心できる場所でないならば、平素から地域とともにその場所づくりを進めておかなければならないと確信した。」

これは、文部科学省の「学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議」が、平成23年の東日本大震災の発生とその後への復旧に向けた営みの中で、今後の新たな学校や学校運営のあるべき姿をとりまとめた提言の一節です。

ここに記された「子どもの学びの場にとどまらない学校」の在り方や、そのために必要な「学校と地域との関係性」への問いかけは、それまで教育改革の柱として十分に位置づけられてこなかった、「地域とともにある学校づくり」のカウンターパートと

しての「地域づくり」の重要性や、それを支える社会教育の体制整備に光が当てられるきっかけとなりました。

未曾有の大災害から10年を迎えるこの年の始めに、いま一度、教育関係者の皆様に学校と地域との関係性について考えていただきたく、本稿を書かせていただきます。

### 1. 「学校を核とした地域づくり」とは

東日本大震災の後も、我が国は毎年のように各地で大規模な災害に見舞われ続けています。悲しみや悔しさに包まれる被災地にあつて、励まし合い支え合う「人」の姿に、多くの方々が勇気づけられてきたのではないのでしょうか。

こうした「人」という財産は、非常事態下に自然と生まれるわけではありません。地域の課題を当事者として受け止め、自分ができることを探し、周囲の多様な人々と対話し、ともに汗を流しながら、学びや成長を促しあえる「場」がその地になければ、「人」は育ちません。学校が、地域の礎（岩）となるためには、子供、保護者、地域住民、教職員といった地域のあらゆる人と人と

が日頃からつながり、課題に取り組み、互いに学びあえる関係性を築いていかねばなりません。

こうした学びの機会を地域の中に作り出す働きかけとして、学校支援ボランティアや放課後子供教室、地域未来塾など、地域の子供の教育支援に地域住民が関わる活動が、社会教育を中心に推進されています。これらをなぜ「学校を核とした地域づくり」と呼ぶかといえば、子供たちの成長を支えるためだけでなく、同じ子供の成長にかかわる教職員と地域住民との横のつながり、相互理解の深まり、ともに学び合う関係性の成熟といった、大人に対する波及効果が強く期待された活動だからです。

## 2. なぜ「一体的推進」なのか

しかし、学校関係者の中には、「地域づくり」は学校には関係のない取組なのに、なぜ関与しなければならないのか、といった疑義を抱かれる方もいるようです。「教員の働き方改革」に逆行する取組だという意見も耳にします。たしかに、地域づくりは、学校の役割ではありません。地域学校協働本部の設置や地域学校協働活動推進員の配置といった地域側の組織的活動を支える社会教育体制が整っていないことは、「地域とともにある学校づくり」へと進む1つ1つの学校に、負担を強いるものだということを、社会教育担当者は忘れてはなりません。

そもそも「学校を核とした地域づくり」は、コミュニティ・スクールや「社会に開かれた教育課程」のカリキュラム・マネジメント

ントといった「地域とともにある学校づくり」の取組と一対をなす用語です。なぜ双方向からの一体的推進が必要かといえば、学校教育―社会教育、子供の学び―大人の学び、学校での学び―地域や職場での学びで、人づくり―まちづくりといった、人間の一生涯の成長を支える多様な学びを整理し、それぞれに対する学校、家庭、地域の役割分担を見直すことが必須だからです。それを抜きにして、教育の充実・改善をはかれば、さらなる学校教育の拡張や教職員の負担増加を招くことは、これまで何度も経験してきました。それでは根本的な解決にはなりません。だれもが教育課題の当事者としてそれを受け止め、自分ができることを探し、多様な人々と対話しながら実践できる「学校と地域との関係性」が必要です。

教育関係者として多くの時間を過ごしてきた皆様は、指導者や管理者としてだけではなく、支援者（ファシリテーター）としても、多様な学びを支える力をお持ちだと思います。今年は、各々の役割をいったん置いて、持続可能な地域づくりを担う一人の地域住民として、同じ時代に子育てをする一人の親として、あるいは、どの子も置き去りにしない社会を守る一人の大人として、多様な地域の方々との学びの輪に加わってみませんか。災害だけでなく、働き方や暮らし方に急激な変化を強いられ続ける今日、社会のつながりの中での学びは、大人にも子供にも新たな気づきを与えてくれるはずです。

特集

令和2年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び  
執行状況についての点検及び評価(令和元年度対象)の概要

総務企画課

この度、県教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、令和2年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価(令和元年度対象)を実施し、報告書にまとめ、9月県議会に提出しました。  
ここでは、報告書の概要を紹介いたします。

教育委員会の活動状況

1 主な活動実績

- ・(1)教育委員会開催実績
  - ・定例会を12回、臨時会を11回、委員協議会を14回開催しました。
- ・(2)教育委員会会議以外の活動
  - ・学校訪問を12回、各種行事への出席を6回、総合教育会議(1回開催)への出席、他の都府県との協議を7回行いました。

2 成果

- ・定例会のほかに臨時会を積極的に開催し、活発な議論を行いました。
- ・移動教育委員会の実施や、授業視察や教職員との意見交換を行うことで教育現場の実態把握や情報収集に努めるとともに、公安委員会、人事委員会との意見交換会を行う

ことで教育行政について共通理解、相互の連携を図りました。

3 課題

- ・県民の意向を反映した教育行政を実現するためには、教育現場の実態把握等を今後継続する必要があります。今後も教職員をはじめとした関係者との意見交換に努めていく必要があります。

4 対応

- ・教育現場の実態把握や関係者との意見交換の拡充を図るため、視察や、情報交換を充実するほか、関係団体主催の協議会等への参加に努めます。

教育施策の推進状況

教育施策の推進状況について、「令和元年度福岡県教育施策実施計画」が定める教育施策の7つの柱ごとにこれを構成する施策の点検及び評価を行っています。また、指標については、「令和元年度福岡県教育施策実施計画」に掲げられた目標値に向けての状況を次の4段階の基準で評価しています。

◎	既に目標を達成している。
○	目標達成に向けて順調に推移している、または、概ね目標を達成している。
△	目標達成に向けて、取組の強化が必要である。
▲	目標達成のためには、取組の抜本的改善が必要である。

柱1 「学力、体力、豊かな心」を育成する

1 学力の向上

◇確かな学力向上のための取組の推進

- 【主な取組・事業】
  - 福岡県学力向上推進計画に基づく学力向上総合推進事業
  - ・平成29年度以降、福岡県学力調査の対象学年を小5、中1、中2とすることで途切れなく児童生徒の実態を把握
  - 「主体的・対話的で深い学び」推進事業
  - ・「主体的・対話的で深い学び」授業実践講座の実施
  - ・福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」の実施(研究開発校11校)

【指標】

確かな学力の育成(全国学力・学習状況調査

における標準化得点の教科ごとの平均値)

	現状値(令和元年度)	目標値(令和3年度)	達成状況
(小)国語	103.4	100以上	○
(中)国語	100.0	100以上	
(小)数学	98.6	98.9以上	
(中)数学	99.0	98.6以上	

【成果】

全国学力・学習状況調査の小学校の標準化得点は、調査の始まった平成19年度と比較して、国語・算数とも上昇し、調査開始以来の最高値を示しました。

【課題】

全国学力・学習状況調査において、中学校の標準化得点は、国語・数学とも全国を下回っています。

【対応】

小中9年間を通して持続的に学力を伸ばさせるため、小中一貫した指導等による「授業改善」、ミドルリーダー等の「人材育成」、管理職のリーダーシップによる「学校マネジメント」を推進します。

2 体力の向上

◇体力向上のための取組の推進

【主な取組・事業】

- 福岡県体力向上総合推進事業
- ・「スポコン広場」地区大会の開催
- ・県立特別支援学校10校にオリンピック・パラリンピアンを派遣

【指標】

子どもの体力の向上(全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の県平均)

値)

	現状値(令和元年度)	目標値(毎年度)	達成状況
(小)男子	54.41(53.61)	全国平均以上	◎
(小)女子	55.96(55.59)		
(中)男子	43.20(41.69)		
(中)女子	50.52(50.22)		
( )は全国平均値			

【成果】

全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小学校男子は5年連続、中学校男子は4年連続、小・中学校女子は3年連続全国平均値を上回りました。

【課題】

子どもの運動習慣をより一層定着させるための取組を推進する必要があります。

【対応】

小・中学校教員を対象とした体力向上指導者研修会の実施や「1校1取組」運動の継続的な実施を通して、体育・保健体育の授業改善を図るとともに、「スポコン広場」の参加推奨やオリンピック・パラリンピック教育の推進等により、子どもたちの運動の動機付けと習慣化を図ります。

柱II 「社会にはばたく力」を育成する

1 多様で特色のある能力や個性の伸長

◇特別支援教育の推進

【主な取組・事業】

- 発達障がい児等教育継続支援事業
- ・ふくおか就学サポートノート(引き継ぎシート)の配布、シート等による引継の実施割合

令和元年度…68・1%

○高等学校等通級指導推進事業

・通級指導員を4校に計10名配置し、高等学校における通級による指導を実施

【指標】

特別支援教育体制の整備(公立の幼稚園・認定こども園・小・中・高等学校において、特別な支援が必要であると考えられる幼児児童生徒に対する①個別の指導計画及び②個別の教育支援計画の作成の割合)

現状値(令和元年度)	目標値(令和3年度)	達成状況
① 99.1%	① 100%	○
② 97.9%	② 100%	

【成果】

各種研修会を通して、早期からの一貫した継続的な支援の必要性や発達障がいの可能性のある幼児児童への支援の重要性を周知し、個別の教育支援計画の作成率が向上しました。

【課題】

・県立特別支援学校の在籍者数が増加するとともに、重度・重複化・多様化しています。個別の指導計画及び個別の教育支援計画を、特別な支援が必要な幼児児童生徒全てに作成する必要があります。

【対応】

・「県立特別支援学校の今後の整備方針について」及び「県立特別支援学校設置計画」に基づき、県立特別支援学校の整備を進めます。  
 ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画が、特別な支援が必要な幼児児童生徒全てに対して作成・活用されるよう様式等の整理・見直しを行います。



**柱Ⅲ 「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する**  
1 郷土の魅力を学び、世界の多様性を理解

◇国際的視野を持つ人材の育成

【主な取組・事業】

- グローバル化に対応した英語教育の推進
- ・英語活動指導員を高等学校に4人配置
- ・外国語指導助手（ALT）の配置・派遣（高等学校73人、小中学校220人）

【指標】

生徒の英語力（①CEFR A1レベル相当以上へ英検3級程度以上）の資格又は相当する力を有する中学校生徒の割合 ②CEFR A2レベル相当以上へ英検準2級程度以上）の資格又は相当する力を有する県立高等学校生徒の割合

現状値(令和元年度)	目標値(令和3年度)	達成状況
① 46.9%	① 50%	○
② 48.5%	② 50%	

【成果】

- ・「聞く」「読む」「話す」「書く」力を育成する英語の授業改善が図られました。

・CEFR A1レベル相当以上（英検3級程度以上）の資格又は相当する力を有する中学生の割合は46・9%で、前年度から全1・7ポイント上昇し順調に向上しています。

【課題】

- ・英語に関する生徒の4つの技能を総合的に育成するため、英語教員の指導力と英語力をさらに高める必要があります。
- ・CEFR A1レベル相当以上（英検3級

程度以上）を取得する中学生の割合を引き続き向上させる必要があります。

【対応】

- ・英語教員の指導力向上のための研修等を引き続き実施します。
- ・中学3年生を対象とした英検I B Aテストや中学生英語スピーチコンテストを行い、英語力の高い生徒の育成に努めます。

**柱Ⅳ 生涯学習社会をつくる**  
1 生涯学習・社会教育の総合的推進

◇社会教育活動の推進

【主な取組・事業】

- NPOやボランティア団体との連携・協力の推進

・みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム 参加者168人  
・中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会（2日間） 参加者延べ585人  
○社会教育関係職員の資質向上  
・市町村新任社会教育関係職員研修（2回） 参加者延べ162人

・社会教育専門研修（3回）参加者延べ81人  
・県社会教育主事研修会 参加者延べ192人

【指標】

社会教育に関する学習情報提供の充実（ふくおか社会教育ネットワークへのアクセス件数）

現状値(令和元年度)	目標値(毎年度)	達成状況
477,650件	300,000件	○

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会では、行政だけでなく、NPOやボランティア等が集い、生涯学習・社会教育に係る実践協議を深めるとともにネットワークを築くことで、地域の連携・協力体制の充実と教育環境整備、地域の様々な課題の解決に役立てることができました。

【成果】

- ・社会教育関係職員・団体等を対象とした研修会を通して、学習のニーズや社会的課題に応じた学びの場を提供することができました。

【課題】

- ・地域の人材育成や課題解決につながる研修の充実が求められています。
- ・より県民のニーズに応えられるよう情報の発信方法を検討する必要があります。

【対応】

- ・学習情報の提供、学習の場を充実させます。
- ・必要な情報を適切に発信するために、県民が情報収集に使用する端末やソフトの変容への対応について研究を進めます。

**柱Ⅴ 県民の文化活動を盛んにする**  
1 文化の振興

◇県民文化芸術活動の振興

【主な取組・事業】

- 県立美術館の機能の充実
- ・展覧会の実施 常設展、企画展、実行委員会展、令和元年度福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展」、第75回福岡県美術展覧会（県展）

【指標】

県立美術館の利用（県立美術館の入館者数）

現状値（令和元年度）	179,387人	目標値（毎年度）	160,000人	達成状況	◎
------------	----------	----------	----------	------	---

【成果】

県立美術館では、「ウォルト・ディズニー・アーカイブス展」「大相撲展福岡」など県民のニーズに応えた展覧会が開催できたことにより、入館者数が目標値を大きく上回りました。

【課題】

・今後も引き続き県民の美術に関する鑑賞・創作意欲を高めていく必要があります。  
・福岡県美術展覧会（県展）については、出品数の減少が続いています。

【対応】

・県民の芸術的ニーズを重視した実行委員会展を今後も開催するとともに、これまで蓄積した県立美術館の財産やノウハウを生かした展覧会を開催するなど、県民の美術に関する鑑賞・創作活動の更なる促進を図ります。

柱VI 県民のスポーツ活動を盛んにする

1 大規模国際スポーツ大会等を契機としたスポーツの振興による地域活性化

◇県民に希望や元気を与える競技スポーツの推進

【主な取組・事業】

○ふくおかアスリート育成強化事業

- ・育成システム整備事業 26団体
- ・指導者・選手海外派遣事業 2団体
- ・中央研修指導者派遣事業 2団体
- ・競技用具整備事業 1団体
- ・トップアスリート育成強化事業 67人
- 女性アスリートの育成
- ・女性アスリートの県外遠征・主要大会への参加事業の実施 17回

【指標】

競技スポーツの振興（国民体育大会における男女総合成績順位）

現状値（令和元年度）	11位	目標値（毎年度）	8位以内	達成状況	○
------------	-----	----------	------	------	---

【成果】

・各競技団体の強化策を再点検し、競技団体において計画的な当年度強化事業が実施されたことで、国民体育大会において多くの競技団体で入賞者を輩出しました。

・女性アスリート育成強化システムの確立を目指し、強化拠点の整備や、主要大会の参加、女性コーチサミットによる指導者の資質向上を図ったことで、国民体育大会女子種目において、個人種目で4名、団体種目で2団体が優勝しました。

【課題】

国民体育大会本大会出場権獲得数が減少しています。

【対応】

・国民体育大会常時8位入賞を目指して、強化事業を充実します。  
・女性アスリートの練習環境の充実を図るた

めに、関係機関や団体等の協力を得ながら、強化拠点の整備や県外遠征等の支援、女性指導者養成のための研修会等を実施します。

柱VII 人権が尊重される心豊かな社会をつくる

1 人権尊重の意識や行動の定着及び人権施策の推進

◇人権教育・人権啓発の推進

【主な取組・事業】

○個別の人権課題に関する指導方法等調査研究事業の実施

・58市町村教育委員会を訪問しての聴取による実態調査

○人権教育実践交流会・人権教育指導者養成連続講座

・人権教育実践交流会 実施回数3回  
研修参加人数延べ2,312人

・人権教育開催講座数 年間7回  
受講者数計35人

【指標】

人権教育の推進（人権教育推進の中核となる指導者養成研修を修了した教員の累計人数）

現状値（令和元年度）	439人	目標値（平成30年度）	424人	達成状況	◎
------------	------	-------------	------	------	---

【成果】

各市町村教育委員会に聞き取り調査を行い、各市町村や各学校の個別の人権課題に関する学習内容や実施状況を把握することができました。

【課題】

若年層教職員の人権意識や知識、指導力等の



向上を図る必要があります。

### 【対応】

人権教育に係る指導力等達成目標に則した、教職経験年数や職務に応じ、指導内容を明確にした研修を実施します。

### 学識経験者意見

#### ○元兼正浩 九州大学大学院教授

・教育委員会の活動状況について

地教法第4条5項で、地方公共団体の長は委員の任命に当たっては、委員の年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、委員のうちに保護者である者が含まれるようにしなければならないとされる。ジェンダーバランスにも配慮された委員構成になっている。年間23回の教育委員会会議は県レベルでは全国平均の開催回数であるが、別に委員協議会（勉強会）の場を設けていることは注目される。レイマンコントロールの趣旨を生かすためにはこうした活動がその源泉となるからである。

・確かな学力向上のための取組の推進

施策を推進するにあたって、学力とは何かについてのコンセンサスが教育関係者のみならず県議会、知事部局、県民にどこまで共有できているかが重要である。狭義の「学力」、例えば、全国学力・学習状況調査の標準化得点に固執してしまうと、その結果に一喜一憂し、中長期的な展望をもった施策が打てなかったり、対応が場当たり的になったりもする。

新学習指導要領で示されたように、〈知識・技能〉や〈思考力・判断力・表現力〉等が「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生

を送るか」に結びつくかという〈学びに向かう力・人間性等〉までの繋がりで捉えた場合、狭義の学力観からの脱却が重要となってくる。その意味で全国学力・学習状況の結果は一進一退であるが、それよりも「自分で考え、自分から取り組んでいたいと思う児童生徒の割合」は確実に増えているし、家庭での学習時間も漸進的に増えていることは評価できる。

#### ○石丸哲史 福岡教育大学教授

・体力向上のための取組の推進

平成29年度以降は、小中学校男女すべてにわたって体力合計平均値が全国平均を上回っている成果が記載されているが、県民の関心は前年度に比べて低下している事実にも及ぶと思う。全国平均も同様に下回っているとはいえず、今後このような傾向が継続するならば、この事実等を閑視せず評価方法の再考や原因究明も必要とされる。

・国際的視野を持つ人材の育成

グローバル人材育成にあたっては、非言語も含むコミュニケーション能力が必須であることは言を俟たないが、イマージョン教育へ傾注することは大きな意義がある。生徒の4つの技能を総合的に育成する上では教員の指導力向上という課題であるとしているので、今後、研修等充実させながら改善していく必要がある。

#### ○大島まな 九州女子大学教授

・家庭教育支援の充実

県内ほとんどの公立小・中学校で、「新」家庭教育宣言」が実施され、家庭教育支援チームを全市町村に派遣する等、学校・家庭・地

域の連携・協働による家庭教育支援が進んでいることは評価できる。

他方、児童虐待等の現状から、家庭教育が困難な家庭、PTA活動に参加しない（できない）保護者が一定数存在する状況である。関係教育部門では、福祉部局との連携をさらに進め、学校だけでは限界がある児童生徒のきめ細かいサポート体制を強化することが求められる。また、家庭学習が難しい児童生徒には地域人材を活用して学習支援する等、家庭教育を補完する地域の支援体制づくりを一層推進する必要がある。

・社会教育活動の推進

県民の学習ニーズや社会的課題に対応した学習機会を提供するとともに、学習成果を活用する機会の充実のために、さまざまな取組が実施されている。特に、ふくおか社会教育応援隊の派遣、ふくおか社会教育ネットワークへのアクセス件数が伸びていること、中国・四国・九州地区生涯教育実践研究会において、県行政と実行委員会が連携、NPOやボランティア、企業等、地域で活動する団体等の広域ネットワークが形成され、地域課題に対応する学習が行われていることは、高く評価される。今後、さらに市町村や学校のニーズを把握しつつ、現代的課題に対処する学習機会の創出とそのため研修が推進されること、情報の収集と提供環境のより一層の整備を期待する。

※報告書の内容は、福岡県のホームページでも公表しています。

(<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/r2henken-hyoka.html>)

# 令和2年度「ふくおか教育月間」記念行事 総務企画課

福岡県教育委員会では、県民の皆様にご子どもたちへの教育について考えていただくことを願い、「福岡県の教育月間を定める規程」を令和2年2月に制定し、毎年11月を「ふくおか教育月間」としています。

11月23日(月・祝)に、「ふくおか教育月間」の制定を記念し、アクロス福岡で記念行事を実施しました。

当日は500人を超える方々に御参加いただき、盛会のうちに終了することができました。

## オープニングセレモニー

オープニングセレモニーとして、狂言師野村万緑氏らによる、狂言「蝸牛」が披露されました。

会場からは笑い声が聞こえるなど、会場の雰囲気明るく盛り上げていただきました。



狂言「蝸牛」

○狂言「蝸牛」…蝸牛(かたつむり)を見たことのない家来が、主人から蝸牛を捕りに行くことを命じられ、藪の中に寝ている山伏(修験者)を蝸牛だと勘違いする、にぎやかで楽しい演目。

## 記念式典

記念式典では、福岡県教育委員会挨拶として、城戸教育長が「ふくおか教育月間」の制定に込められた思いや、教育の重要性を交え挨拶いたしました。

また、御来賓の方々を代表して、福岡県江口勝副知事、福岡県議会吉松源昭議長から御祝辞をいただきました。



教育長挨拶

また、「ふくおか教育月間」のイメージキャラクター「ミライル」をデザインした、キャラクターデザイナーの谷口亮氏と、「ミライル」の名前を考えた福岡市立田隈中学校3年田中亜弥さんにミライルに込められた思いなどを語っていただきました。



ミライル



谷口亮氏(左)と田中亜弥さん(右)

ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」  
これからの社会にはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精

## 記念講演

記念講演では、大隅 良典 教授に講演いただきました。

大隅教授のこれまでの研究の歩みをとおして、「自分自身の好奇心を大切にすること」「自分で考え行動することが重要であること」「自分自身の問いを大切にすること」など、生き方や学び方について、これからの時代を生きる子どもたちへの大変貴重なメッセージをいただきました。



大隅教授の講演

### 東京工業大学栄誉教授 大隅 良典 氏

1945年福岡市生まれ。福岡県立福岡高等学校、東京大学教養学部卒。米ロックフェラー大学のノーベル賞受賞者エーデルマン教授の下で研究し、88年に東京大学教養学部助教授。2009年から東京工業大学特任教授を務め、14年から現職。生物が自分自身の体を食べるオートファジーの仕組みの解明で16年にノーベル生理学・医学賞を受賞。

## 生徒発表

生徒発表では、令和元年度に福岡県教育文化表彰を受賞した、福岡市立城南中学校吹奏楽部と、福岡県立青豊高等学校ダンス部に、日ごろの活動の成果を発表していただきました。

城南中学校吹奏楽部の演奏では、70人の大規模編成で迫力のある演奏が披露され、演奏曲に



城南中学校生徒発表



応じた踊りなど、行事参加者の気持ちを楽しくする演出が見られました。

また、青豊高等学校のダンス部の演技では、生徒が一体となった、力強い演技が披露され、ソロパートや衣装を替えた演技など、華やかな演出で、行事参加者に元氣と感動を与えていただきました。

青豊高等学校生徒発表





特集

令和2年度福岡県教育文化表彰

総務企画課

福岡県教育委員会は、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に貢献し、その功績が特に顕著と認められる個人、団体及び学校その他の教育機関について業績を表彰し、本県教育の振興に資することを目的として、「教育文化表彰」を実施しています。今年度は、個人47件、団体13件、計60件の受賞を決定しました。(受賞者・団体名は下記のとおり。)また、表彰式を11月23日(月・祝)令和2年度「ふくおか教育月間」記念行事内で実施し、表彰状と記念品を贈呈しました。

【令和2年度 福岡県教育文化表彰受賞者名簿】

児童生徒の部

個人		団体	
福岡市立高取小学校	権藤 茜	大牟田高等学校 (卒業生)	竹市 大祐
古賀市立青柳小学校	西尾 千春	福岡県立中間高等学校 (卒業生)	台信 愛
福岡市立宮竹中学校	坂田 佳暖	福岡県立修猷館高等学校 (卒業生)	藤好 駿太
久留米大学附設高等学校	柴山 礼寛	大牟田高等学校 (卒業生)	森 健心
福岡大学附属大濠高等学校	鶴 樹里愛	団体	
福岡県立苅田工業高等学校	林 春斗	精華女子高等学校吹奏楽部	
福岡市立飯倉小学校	竹谷 美涼	福岡市立老司中学校男子剣道部	
中村学園女子高等学校	池田 胡春	かしいヤングラガーズ	
東福岡高等学校	竹原 秀一	第74回国民体育大会ラグビーフットボール競技会 少年男子福岡県選手団	
福岡大学附属若葉高等学校	三村 はるな	第74回国民体育大会ゴルフ競技会 少年男子福岡県選手団	
祐誠高等学校	金田 舞夏	第74回国民体育大会バスケットボール競技会 少年男子福岡県選手団	
東福岡高等学校	小山 陽翔		
筑陽学園高等学校	松尾 駿		

一般の部

社会教育部門		学校保健部門	
個人		個人	
宇美町教育委員会	前社会教育委員 吉留 節子	一般社団法人福岡市医師会	学校医 池田 雄祐
福岡県PTA連合会	前会長 永原 謙太郎	公益社団法人北九州市医師会	学校医 津田 恵次郎
福岡県立図書館布の絵本作りボランティア「ゆずりはの会」	元会長 葦津 明美	一般社団法人大川三瀬医師会	学校医 中尾 良一
嘉麻市図書ボランティアサークルミッフィー	前代表 福田 怜子	一般社団法人北九州市歯科医師会	学校歯科医 加藤 晴三
福岡県立図書館ブックトークボランティア「本の楽しさおとどけ便」	元代表 松尾 有子	一般社団法人北九州市歯科医師会	学校歯科医 辻 利貞
団体		一般社団法人北九州市歯科医師会	学校歯科医 貫 大三郎
築上町立椎田中学校PTA		一般社団法人福岡市薬剤師会	学校薬剤師 井上 嘉明
福岡県立香住丘高等学校PTA		公益社団法人八幡薬剤師会	学校薬剤師 岸本 謙二
学術・文化部門		公益社団法人八幡薬剤師会	学校薬剤師 脇園 隆二
個人		教育行政部門	
直方市文化財専門委員会	委員 井手川 睦美	個人	
公益社団法人福岡県美術協会	副理事長 鐘ヶ江 勢二	久留米市教育委員会	元委員長 永田 見生
福岡県文化財保護審議会	専門委員 白川 琢磨	春日市教育委員会	前教育長 山本 直俊
福岡県銃砲刀剣類登録審査委員	田中 和夫	学校教育部門	
福岡県文化財保護指導委員	築地原 正英	個人	
直方市文化財専門委員会	副会長 東 陽一	春日市立春日野小学校	前校長 小森 晃
団体		筑紫野市立原田小学校	前校長 手島 宏樹
村田ファミリー		北九州市立木屋瀬中学校	前校長 福田 安秀
体育・スポーツ部門		福岡県立小倉工業高等学校	校長 奥田 邦夫
個人		福岡県立筑紫丘高等学校	校長 立光 敏弘
福岡県立新宮高等学校	教頭 山内 光春	福岡県立直方高等学校	校長 田中 浩子
団体		福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」	校長 牛島 大典
第74回国民体育大会自転車競技会男子福岡県選手団		団体	
第74回国民体育大会柔道競技会女子福岡県選手団		小竹町立小竹北小学校	
		その他教育文化部門	
		団体	
		公益社団法人 福岡県獣医師会	

## 特集

# うきは市教育委員会における オンライン学習スタートアップ

## 義務教育課

### ○ はじめに

うきは市がこれまでに推進してきたICT教育、さらに、新型コロナウイルス感染症対策をきっかけとしたオンライン学習の実施や一人一台タブレット端末の有効活用という課題を解決するための取組について報告します。

### 1 ICT環境整備の経過

平成28年度から「21世紀にふさわしい学びの環境とそれに基づく学び」と題し、デジタル教科書やタブレット端末を使った授業を行うこと、校務支援システムの導入により校務を効率化することなど、学校教育の情報化を目指してきました。

令和2年度までの人的・物的環境整備目標

- ◇ タブレット端末全児童生徒・全教職員分の配布、PC室40台等に整備
- ◇ 校内無線LAN環境を全小中学校に整備
- ◇ 教育用ソフト・アプリ校務支援システムの導入
- ◇ ICT支援員の配置

### 2 学校におけるICT活用の研究

平成29～令和元年度には、福岡県重点課題研究の指定を受けて、「情報活用能力を身に付けた子供の育成」を目指し、教科等におけるICT活用・情報モラル教育・プログラミング学習について研究を進めました。その研究の成果を生かし、作成した実践例やモデルカリキュラムを市内各小・中学校で共有化し、ICT教育の推進に努めてきました。現在は、令和元～三年度福岡県情報活用能力育成事業の指定を受け、プログラミング教育のさらなる充実について研究を進めています。



プログラミング学習



特別支援教育でのICT活用

また、特別支援教育においても、タブレット端末等のICTを活用した学習は、個に応じた支援を行うために非常に有効であり、積極的な活用を行ってきました。

### 3 ICT活用のための教員研修

教員のICT機器を活用した授業改善を進めるため、本市では、年2回の全教職員研修会と校内研修において、ICTを活用した授業づくりをテーマとして、研修を行っています。そして、これらの研修を4年間積み上げてきたことにより、教員のICTを活用する意欲や指導力を向上させることができました。

### ○ 全教職員研修会 Society 5.0

時代に求められる教育など、理論研修を中心とした講演を行っています。昨年度は、鹿児島大学の山本朋弘准教授に、うきは市ICT教育



全教職員研修会での講演

アドバイザーとしてご講演いただきました。

○ 実技研修

小・中学校のすべての教員を対象に、習熟度別に分け、半日の研修を実施しています。実際にタブレットを操作しながら、ロイノートアプリの操作方法やプログラミング学習の体験など、すぐに授業に役立つ実践的な内容で行いました。

○ 校内研修

拡大提示装置の活用法やデジタル教科書の使い方、ロイノートの活用事例の発表など、外部講師を招き、各学校での実践を交流しました。

4 オンライン学習の取組

本年度の新型コロナウイルス感染症対策により、子供達の学びの保障のために、オンライン学習が求められるとともに、GIGAスクール構想の予算措置が前倒しされました。

そこで、本市では、オンラインプロジェクト委員会を立ち上げ、オンライン学習の実施のための準備・試行を行うこととしました。

「オンラインプロジェクト委員会」

- ・委員長（教育長）
- ・校長代表（小学校）、教頭代表（中学校）
- ・各小学校1名（計7名）、各中学校担当者1名、数学科担当者数名（計4～5名）
- ・市教育センター
- ・市教育委員会指導主事

オンラインプロジェクト委員会では、5月か

ら月に1～2回の会議を開催し、オンライン学習に使用する算数・数学科の動画教材の開発を行いました。

一単位時間の動画を

○ 導入・展開・終末で構成すること

○ 児童生徒と教師との双方向のやり取りを位置付けること

○ 認め、励ます評価ができること

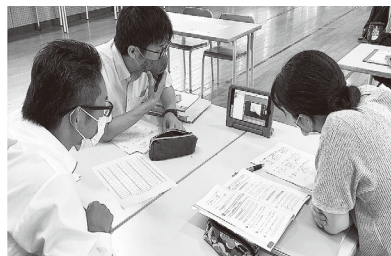
という視点で、動画のシナリオの作成プロジェクト会議で内容の審議、動画撮影という流れで動画教材を作成しました。

現在、各学年一単元の動画を作成しており、今後、拡大していきます。

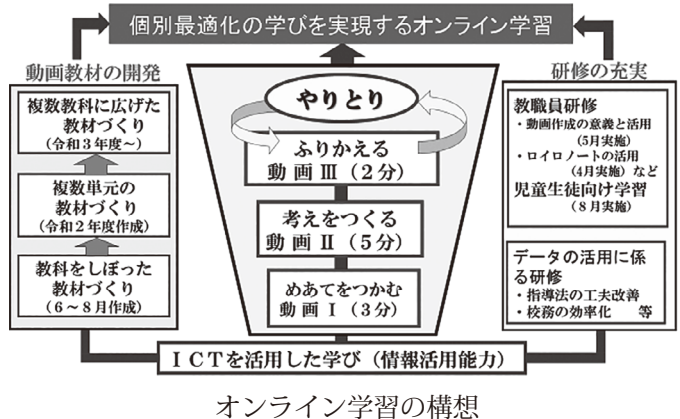
「オンライン学習の試行」

家庭でのオンライン学習を想定し、動画教材を活用した授業を行いました。子供の習熟度により問題解決にかかる時間は異なりましたが、教師の説明動画を繰り返し視聴しながら自分で学習を進めていました。また、授業の終末で練習問題を解いた後に、タブレットでノートを撮影して担任に送信し、担任はノートに評価をして送り返す双方向のやり取りもできました。

オンライン学習の試行をすることで、感染症対策のためだけでなく、日常の個別最適化の学びの可能性が見えてきたところです。



プロジェクト会議での内容審議



オンライン学習の構想

○ おわりに

本市では、オンライン学習の試行として、オンデマンド方式で行うように計画してきましたが、リアルタイム方式とオンデマンド方式とを組み合わせた学習がより効果的であると考え、今後、その展開を行っていききたいと考えているところです。

また、オンラインによる学びを模索してきたことにより、学び方や学ぶ場所の多様な学びの可能性を見いだすことができました。このことは、誰一人取り残すことのない個別最適化された学びにつながるものであり、さらに、新たな学びの構築を目指したいと考えています。



# 令和2年度福岡県とびうめ教育表彰

教職員課・高校教育課・義務教育課

本表彰は、県内教職員の優れた教育活動に対し、その努力をたたえ、更なる教育の振興を図るため、次の4部門を合同して、平成27年度から実施しています。

## 1 表彰の種類（部門）と目的

### (1) 福岡県公立学校優秀教職員表彰

日々の授業や生徒指導等に優れた能力を発揮し、学校運営等に大きな成果を上げている教職員を顕彰することで、広く教職員の意欲及び資質能力の向上を図ることを目的としています。

### (2) 福岡県公立学校教育マイスター表彰

特定の分野や領域において優れた指導力と専門性を有し、効果的な実践をしている教職員を「ふくおか教育マイスター」として認定し、その技術や知恵を若手職員に伝承することを目的としています。

### (3) ふくおか教育論文表彰

教育課題の解決に取り組んだ教育実践に関する論文を募集することで、教育関係者の意欲喚起及び人材の育成を図るとともに、優れた教育実践の普及を図り、県下の教育活動の充実に資することを目的としています。

### (4) 福岡県公立学校優秀校表彰

学校の特徴ある教育活動を顕彰することを目的としています。県立学校部門は経営改善、教育内容改善、キャリア教育、生徒指導、グローバル人材育成の5つの部門から成り、市町村立学校部門では確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、障がいのある児童生徒の自立や社会参加、信頼される学校づくりの5つの観点で募集しています。

## 2 表彰（各部門）（※順不同・敬称略）

福岡県公立学校優秀教職員表彰33名、福岡県

公立学校教育マイスター表彰20名、ふくおか教育論文表彰40名、福岡県公立学校優秀校表彰8校が受賞されます。皆様の教育に対する熱意と実績が、学校組織に活力をもたらし、本県全体の教育力の向上につながることを期待しています。

### 福岡県公立学校優秀教職員表彰部門

令和2年度の被表彰者は、次の33名です。

#### 〔市町村立学校（小学校⑬・中学校⑩）〕

大野城市立大利中学校	指導教諭	山川	周作
大野城市立平野中学校	主幹教諭	浅野	知紀
太宰府市立太宰府東中学校	教諭	園田	晋也
古賀市立花鶴小学校	主幹教諭	船越	美紀
古賀市立古賀中学校	教諭	本屋敷	耕三
糸島市立南風小学校	主幹教諭	月形	徳太郎
那珂川市立安徳北小学校	主幹教諭	満生	祐二
須恵町立須恵第一小学校	主幹教諭	渡橋	大助
新宮町立新宮北小学校	栄養教諭	石川	佳子
遠賀町立広渡小学校	教諭	山本	初美
水巻町立水巻中学校	主幹教諭	古野	健二

小郡市立三国小学校 指導教諭 河村 昌宏

朝倉市立甘木中学校 栄養教諭 竹井 浩美

筑前町立三輪中学校 企画主査 喜多 靖

筑前町立夜須中学校 教諭 白水 里美

東峰村立東峰小学校 主幹教諭 杉野 千晶

柳川市立藤吉小学校 主幹教諭 石橋 由美

八女市立福島小学校 主幹教諭 堀下 健太郎

みやま市立瀬高小学校 教諭 甲斐田 哲純

飯塚市立穂波西中学校 主幹教諭 日高 元成

田川市立天浦小学校 主幹教諭 田中 公一朗

行橋市立泉中学校 主幹教諭 角谷 英範

苅田町立苅田小学校 主幹教諭 塩田 美穂子

〔県立学校（高等学校）・特別支援学校（2）〕

八幡高等学校 養護教諭 小野原 千代

中間高等学校 教諭 堀 玲子

博多青松高等学校 主幹教諭 古賀 栄二郎

筑紫丘高等学校 主幹教諭 大塚 和広

春日高等学校 主幹教諭 本田 英靖

糸島高等学校 事務次長 木下 裕二

明善高等学校 主幹教諭 熊谷 暢浩

伝習館高等学校 主幹教諭 上田 鉄人

古賀特別支援学校 教諭 坂本 亮

小郡特別支援学校 主幹教諭 三角 文子

福岡県公立学校教育マイスター表彰部門

ふくおか教育マイスターは2年間にわたり、本県全体の教育の質の向上のため、所属校はもとより、他校の教職員等に対する教育相談や公開授業など、実技指導の活動等を行います。

令和2年度の被表彰者は、次の20名です。

〔市町村立学校（小学校）・中学校）・義務教育学校（1）〕

《教科指導》

糸島市立桜野小学校 教諭 木下 幸子  
〔国語・書写〕

志免町立志免中央小学校 教諭 工藤 美奈子  
〔道徳〕

新宮町立新宮東中学校 教諭 岩井 浩  
〔数 学〕

直方市立直方第二中学校 教諭 詫 直子  
〔外国語〕

飯塚市立立岩小学校 教諭 木村 美佳  
〔国語・算数〕

《生徒指導》

大野城市立御笠の森小学校 養護教諭 神吉 和子

築上町立椎田中学校 教諭 吉澤 佳代子

《特別支援教育》

篠栗町立勢門小学校 教諭 高山 久美子

朝倉市立大福小学校 教諭 安武 ユリ

《その他》

太宰府市立国分小学校 教諭 大山 眞幸  
〔学級経営〕

須恵町立須恵中学校 教諭 吉村 秀美  
〔学年経営〕

遠賀町立遠賀中学校 教諭 畠山 智加枝  
〔人権教育〕

八女市立兵部清流学園 養護教諭 坂本 裕美  
〔食 育〕

大木町立末佐木小学校 教諭 池上 詠子  
〔特別活動〕

大任町立大任中学校 教諭 其上 利幸  
〔環境教育〕

〔県立学校（高等学校）・特別支援学校（1）〕

《生徒指導》

小倉高等学校 教諭 企救岳 浩志

《部活動指導》

八幡高等学校 教諭 熊丸 修二

《教科指導》新たな学び

八幡高等学校 教諭 廣濱 一郎

《教科指導》地理歴史

ありあけ新世高等学校 教諭 前川 修一

《特別支援教育》

福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」  
教諭 細坂 公文

ふくおか教育論文表彰部門

〔本年度の応募状況〕

本年度は、職歴3年以下の「若年の部」、4年以上の「一般の部」の2部門で募集を行い、応募総数は276点でした。応募者のうち、職歴3年以下が全体の約25%、5年以下を含めると全体の約50%になり、若年教員の積極的な応募が見られます。  
教育論文を書くことは、これまでの自分の実践を振り返り、自分で気付かなかった価値や課題を見出し、更なる教育実践の充実につながります。今後も積極的な応募を期待します。

〔受賞作品（優良賞以上）〕

〈一般の部（小学校⑩・高等学校①）〉

【優秀賞】			
主題	所属	職名	氏名
教員集団の協働化を促す学校経営の在り方	太宰府市立太宰府小学校	校長	浦田 貴子
自分らしい表現を追求する子供が育つ画工作科学習指導	うきは市立千年小学校	教諭	山口 洋子
社会的事象の意味を見出す子供を育てる社会科学習指導	筑前町立東小田小学校	教諭	古賀 奏一郎
科学的に問題を解決する力を身に付けた子どもを育てる理科学習指導	大川市立宮前小学校	教諭	山田 裕香
【優良賞】			
主題	所属	職名	氏名
効率的・効果的なセンター方式による通級指導に関する研究	大野城市立大野北小学校	教諭	坂井 ひろみ
けがの危険予測及び回避ができる子どもの育成	糸島市立南風小学校	養護教諭	中原 さくら
若年教員の資質・能力を育成する組織運営の一考察	糸島市立東風小学校	教諭	後藤 太志
魅力ある若年教員を育成するOJT	うきは市立吉井小学校	教諭	鶴本 健
学校事務職員が、校務運営に参画する共同学校事務室の取り組み	みやま市立桜舞館小学校	主幹	白谷 かおり
学級をよりよくしようと進んで実践する子どもを育てる学級活動(1)の研究	飯塚市立頼田小学校	教諭	野崎 湧雅
エビダンススペースのカリキュラムマネジメント分析を行い、4月から6月までに、214講座実施した同時双方向型オンライン学習に係る教務部の取組	福岡県立戸畑高等学校	主幹教諭	大村 高敏

〈若年の部（小学校⑥）〉

【優秀賞】			
主題	所属	職名	氏名
「算数の世界」と「日常生活」をつないで考える子どもを育てる算数科学習指導	みやま市立南小学校	教諭	井口 愉梨
自己の読みを深める子供を育てる物語文の学習指導	広川町立上広川小学校	教諭	中尾 優花
自ら問いをもち主体的に問題を解決する子どもを育てる第3学年理科学習指導	豊前市立角田小学校	教諭	川野 明美
【優良賞】			
主題	所属	職名	氏名
相手意識をもち、他者へ主体的に働きかけることのできる子どもを育てる国語科学習	粕屋町立粕屋西小学校	教諭	横川 梓
正しい知識をもって健康な生活様式を確立する児童を育てる保健教育	中間市立底井野小学校	養護教諭	佃 美奈
自ら気づき実践する子どもを育てる健康教育	朝倉市立金川小学校	養護教諭	梅本 絵美

福岡県公立学校優秀校表彰部門

〔県立学校（高等学校②・特別支援学校①）〕

水産高等学校（教育内容改善部門）  
三池工業高等学校（生徒指導部門）  
福岡高等聴覚特別支援学校  
（キャリア教育部門）

〔市町村立学校（小学校④・中学校①）〕

古賀市立花鶴小学校（学校経営）  
久留米市立牟田山中学校（確かな学力）  
筑後市立西牟田小学校（豊かな心）  
川崎町立川崎東小学校（健やかな体）  
荏田町立片島小学校（特別支援教育）

【各表彰部門 担当窓口】

〔福岡県公立学校優秀教職員表彰部門〕

教職員課管理免許係

TEL092-643-3894

〔福岡県公立学校教育マイスター表彰部門〕

教職員課県立学校係・市町村立学校係

TEL092-643-3893 TEL092-643-3892

〔ふくおか教育論文表彰部門〕

義務教育課指導班

TEL092-643-3910

〔福岡県公立学校優秀校表彰部門〕

高校教育課指導班（県立学校）

TEL092-643-3905

義務教育課指導班（市町村立学校）

TEL092-643-3910

※ 以下のURLにて関連画像を配信予定  
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/tobiume.html>



# 地域のニーズに応える図書館へ 大木町図書・情報センター

## 1 大木町図書・情報センターの紹介

本町は、福岡県の南西部に位置し、人口約14000人の一郡一町の町です。肥沃な大地と豊富な水、恵まれた気象条件のもと農業の町として発展してきました。

平成20年に全国2例目となる「もったいない宣言(ゼロウェイスト宣言)」を公表し、廃棄物を資源に変えていく循環のまちづくりを提唱しました。令和元年12月には福岡県で初めて「気候非常事態宣言」を表明し、2030年までに公共施設の電力全てを再生エネルギーで賄うなど脱炭素社会の実現を目指しています。

町の中心部にある大木町図書・情報センターは、公民館と図書館の機能を併せ持つ施設です。『子どもからお年寄りまで』『いつでも』『気軽に』集える生涯学習の館」というテーマを掲げ、成長から成熟する町を目指し、町民の生涯学習支援を進めるために、町民参加の下、新たな交流の拠点として整備してきました。「図書・情報」「展示・ホール」「町民活動の支援」の3つの機能を充実を図り、「図書・情報」の拠点施設として平成22年に開館しています。

## 2 図書館運営計画の作成

作成の意図は、これまでの活動を整理・統合し、重点化することにより、目的達成に向けた計画的な実践へとつなぐためです。

本年度は、重点目標を4点設定しました。

- (1)地域のニーズに沿った図書資料の充実と行事、イベントの見直し
- (2)行事、イベント、読書の意義や良さに関する情報発信
- (3)関係機関の年間計画の作成と評価
- (4)人材育成の観点から職員やボランティアなどの研修会の充実

## 3 地域のニーズに沿った図書資料の選書

地域のニーズに応えるために、利用者の年齢層、貸し出される本の分類やジャンル、流行等を調べ、選書の基本的な視点を定めました。

- ・ 専門書より実用書(農業・医療等)
- ・ 高年齢者が好む歴史もの
- ・ 文字が苦手でも読めるコミック本
- ・ 児童が好きなシリーズ本

- ・ 話題になっている本 等

今では、選書した図書資料の貸出回転が速く、予約が出るほどになりました。

## 4 ニーズに沿った行事、イベント等

### ○小学校学習指導要領改訂に伴うイベント

今回の改訂で外国語科が新設され、プログラミング学習が導入されました。この改訂には町民の関心も高いので、「英語の読み聞かせ」と「やってみようプログラミング」というイベントを企画しました。ここでは、「英語の読み聞かせ」を紹介します。

英語の堪能なボランティアと本町のALT、日本語のボランティアを招いて、同じ絵本の日本語版と英語版を組み合わせて実施しました。



ALTによる読み聞かせ

ら、日本語と英語の読み聞かせを交互に進めていくうちに、一緒に声を出したり体を動かしたりする楽しい様子が伺えました。そして、最後に日本語版と英語版の絵本の紹介をしました。小学生から大人まで約70名の参加があり、アンケートの結果から外国語教育への関心の高さや他のジャンルの本へ読書の広がりを感じ取ることができました。

今回は、対象を幼稚園児・保育園児へと広げて実施する予定です。

### ○「山の日おはなし会」

貸出の調査やカウンターでの会話から、草花等に興味のある方や登山の経験がある方が多いことが分かりました。

そこで、8月の「山の日」にあわせ、おはなし会と写真展を企画しました。写真展では、登山の時に撮影した山や花の写真を募集し、館内に展示しました。また、登山や山の景色、花に関する図書を展示したり、テントやザック等の登山道具の体験コーナーを設置したりしました。このとき、イラストや山の日設定の意味等、日本山岳会の協力を頂きました。

1カ月足らずの展示でしたが、子どもから大人までザックを担いだりテントに入ったり、本を手を取ったりする姿が見られました。

おはなし会では、登山や花との出会いの体験談、山の本やDVDの紹介を通して、図書館事業への理解を深め、読書への意欲と関心を高めることを目指しました。

子どもから大人まで約30名の参加があり、予定時間がオーバーしても質問する人の姿が見られました。そして、想像の幅を広げる読み方の

一例として、文字だけでは山や登山の様子が想像しにくい場面をDVDの映像で補完するという「映像」と「図書」を組み合わせた方法を紹介しました。年配者を中心に、自分の体験を想起したり山の花を楽しんだりする様子が見られました。会の終了後も質問や本の場所等の問い合わせが多くありました。

来年度は、この事業への参画を広く町民へ促し、協働して実施していこうと考えています。

### ○「ぬいぐるみのおとまり会」

このおとまり会は、ぬいぐるみを図書館に一晚預け、次の日に図書館で過ごしたぬいぐるみの様子を表した小冊子と、ぬいぐるみが選んだ絵本を渡すという幼児向けの取組です。これは、子どもの冒険心を引き出して、夢や希望を育みながら図書館や本を身近に感じさせたり、家庭での会話のきっかけを作って、図書館への関心を高めさせたりするものです。このイベントは、募集するとすぐに定員がいっぱいになる人気の高いイベントです。

参加した子どもは、大事そうにぬいぐるみを抱っこして図書館へ来て、手放すときは、別れを惜しむような表情で預けていきました。

その後、職員全員で、ぬいぐるみ1体ごとに10場面以上の写真を撮り、コメントを入れて小冊子を作成しました。写真の中には、ぬいぐる



実物（登山靴）を使った説明

みがある子のために絵本を選んでいるポーズを忍ばせました。

次の日、子どもにぬいぐるみを手渡すと、すぐに小冊子に目をやり顔をほころばせました。そして、ぬいぐるみが自分のために選んだ絵本を知るとまた嬉しそうな顔になりました。

このような姿から、子どもに夢を与え、読書への興味も高めることができました。読書への苦勞は多いのですが、親子で喜び、感謝の言葉を頂くことでこのイベントを行ったことのよさを実感しています。

この他にも、町民の学びを支えるために「新しい生活様式」を踏まえて、小学校で実施された

「子どもの預かり事業」での読み聞かせ、貸出冊数の無制限化など現場のニーズに合わせた工夫をしています。



ぬいぐるみのお迎え

### おわりに

今後、カフェテラスの設置、音楽や映像を楽しむ環境づくりなど予定しているところがあります。

これからも地域の方々との確かな知識を得る場、豊かな心を育む場を目指し、地域のニーズに応えていきたいと思っています。

# 「ふくおか教育マイスター」（令和2年、3年度） 大切にしていること

直方市立植木小学校 教諭 吉浦章子

## 〇はじめに



私は目の前の子どもたちの姿から自分の指導の未熟な部分を見つけ、その学びを日々の実践にいかしていくことを大切にしてきました。私自身が様々な場面から学んだことで大切にしていることを二つお話しできたらと思います。

## 〇「子どもの姿を知る・伝えたい」ということ

「教室の中からだけでは見えてこない子どもたちの姿を知ろうとすること」これは子どもたちと向き合う上で、学びの根底を支える上でも大切なことだと実感しています。その子がどんな状態、どんな状況で教室の自分の席に座っているのかを家庭に、地域に足を運んで初めて知ることがあります。足を運ぶことで保護者、そして地域の方と、いつでも話せる関係を作っていくことにもつながります。知ろうとすることがその子の心に届く指導のまずは一歩ではないかと思えます。

そして、「教室の中から見えてくる子どもの姿を保護者や他の先生方と共有していくこと」同年齢集団の中での子どもの様子は唯一、私たち担任教師が日々の中で見聞きし、感じることができ、子どもの中で見聞きし、感じることは、集団の中で学ぶきつさを抱えている場合があります。そのような場合、指導の仕方をかえる必要があるかもしれません。さらに

は、指導も対応も個別に支援が必要な場合もあるかもしれません。経験を積み重ねても自分だけでは判断できないことも多いのです。

だからこそ、まずは、子どもたちのことを話せる職員集団でありたいと思います。「今日、〇〇さんがこんなふうだった。だから、こんな指導をしたのだけど、〇〇〇だった。」職員室で、日々、このような会話ができれば、その子のサインに気付く先生から適切なアドバイスがいただけるかもしれません。また、専門家のアドバイスにつながる場合もあると思います。そして、そんな会話の中で、保護者にどんなふうにお伝えすればその子のよりよい成長につながるかという前向きな話し合いにつながるかを一緒に考えることもあります。

自分自身が今、受け持っている子どもたち一人ひとりの今を、そして近い将来、さらに大人になる頃を想定しながらつけていかなければならない力を保護者や同僚と共に考えていける教師でありたいと思います。

## 〇「子どもも安心して過ごせる居場所づくり」

これは、学級経営の一番の基盤でなければならぬと思います。あたたかい居場所づくり。当たり前なことですが、なかなか難しいことです。自分は何を大切にしているのか、そして何を許さないのか。担任自身の人権意識が問われてきます。だからこそ私たちは常に自身の人権意識に問いをもち、学び続けなければならぬと思います。

担任自身がその部分を明確にもち、子どもたちとの生活の中で起こる出来事をチャンスととらえ、子

どもたちと共に考え、自身のメッセージを伝えていく。子どもたち同士のけんかやトラブルは、大切なことを考えるとても良い機会となります。失敗もとてもよい経験となります。失敗や間違いを一人の友だちの思いを知る機会とし、学びとする学級になれば、「そのままでもいいんだよ。」という安心感が高まっていく学級になっていくように思います。そして「そのまま」「ありのまま」を互いに受け止められる集団になれば、そこから始めて、「今の自分をさらに高めようとする」学級集団となり、互いに成長していけるのだと思います。

日々の生活の中で、このような営みを子どもと共に作り上げていくことを大切にしています。一人ひとりの子どもたちの思いを汲み、子ども同士の思いをつなぎ、その上で子どもたちに力をつけていくにはどうすればよいか、何が必要なかを考え、実践し、見届けていくことをこれからも大切にしたいと思っています。

## 〇終わりに

自分が若かりし頃、「困ったときはいつでも相談に乗るよ。そして、あなたが次の若い世代に返していきなさい。」といつも先輩方に助けていただいたことを思い出しながら、若い先生方と子どもたちのことを共に考えることを大切にしています。職員室で、若い先生方が、自分のクラスの子どもの成長を嬉しそうに語る姿は、何より励みになる毎日です。

これからも、先生方と力を合わせ、目の前にいる子どもたちと真摯に向き合い、子どもたちの成長を支えていきたいと思っています。

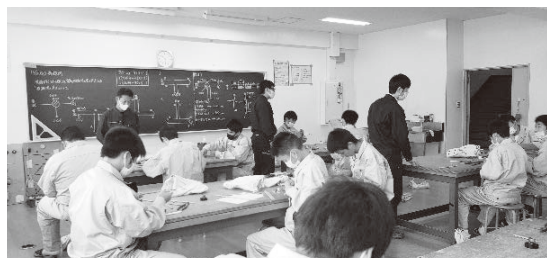


## 「ふくおか教育マイスター」（令和2年、3年度） 生徒の力を伸ばす指導改善の取組

福岡県立香椎工業高等学校 教諭 岩谷 誠一



本校は、県内で唯一電気科を2クラス有する工業高校です。私が本校に赴任した当時は、第2種電気工事士試験に電気科2年生80名が受験して、合格率は50%前後でした。何とかこの合格率を引き上げようとする指導体制の再編成を試みました。最初に着手したのは、職員側の意識改革です。全員合格を目指す姿勢を生徒に示しました。それまで、筆記試験対策のために、1人の担当者が40人を相手に講義を行っていたのですが、電気科全職員が教室に入り、前後左右から



電気科全職員での指導

指導を行うことで、きめ細かな指導ができるようになっていきました。さらに、生徒の解答を理論分野、施工方法分野、配線図分野に分類し、生徒が、今、どの分野で正答率が伸びていないのか、理解が進んでいる分野はどこなのかを分析し、より効果的な指導方法を検討していただきました。実技試験対策においては、職員が1人につき1つの公表問題のサンプルを作成することにしました。これにより、各問題の作業のポイントや欠陥になりやすい箇所を明確に把握できるようになり、指導の際、大いに役立ちました。また、技能試験は指定寸法の前後50%の許容範囲があります。そのため、今までは、剥ぎ取り寸法を「拳一つ分」や「手のひらサイズ」など大まかな寸法で指示していたも



VVFケーブルの剥ぎ取り寸法出し

のを、「ジョイントボックス内は10cm」「器具取り付けは5cm」など、細部にいたるまで指示することになりました。初めて作業をする生徒にとっては細かく指示を受けた方が、困惑しないでスムーズに作業が進むようです。このように、職員の意識を改革し、指導方法を見直すことで、次第に合格率も向上し、現在の合格率は90%に迫るまでになりました。昨年は、本校全体で100名の「第2種電気工事士」を育成できました。この中には、電気科2年の担任である数学科の教員も含まれます。電気科の職員の中から、電気工事士や電気主任技術者の資格取得に挑戦する者ができました。今後は、学科の垣根を越えた資格取得の指導や教員相互の積極的な教科指導に関する議論を行い、指導方法や教科書の隠れた法則や理論を探究して、理論（教科書）と実践（実習）が内容的にも時期的にもうまくマッチするよう、実習の在り方について検討を進めていきたいと考えています。

# 「学びをとめない」～新型コロナウイルス感染拡大防止のための

## 臨時休業中に実施した214講座の同時双方向型オンライン授業

### 福岡県立戸畑高等学校



#### はじめに

本校では、昨年度まで、ICT機器の活用による授業改善に向けて、継続的に研修に取り組んできました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業中にオンライン授業を開始するためには、既存のICT環境では不十分であり、速やかにオンライン授業へ移行することはできないのではないかと思われました。

#### 1 同時双方向型オンライン授業に向けた取組

##### (1) 課題を可視化し、短期目標を定める

まず、短期目標を設定しました。当面は、計画的に家庭学習を課した上で、生徒の学習状況を把握するとともに、ICT機器を活用して生徒の学習を支援することにしました。

##### (2) 文字でつながる

短期目標を達成するためには、オンラインのポートフォリオサービスを利用し、「文字でつながる」ことが最適であると考えました。一日の学びの振り返りや学習時間、理解できなかったことや感想等、生徒が記入したものに教員が返信することがいつでも可能になるからです。

そこで、4月10日から、クラウドを介して教員と生徒のコミュニケーションを可能にするサービスである、ベネッセコーポレーションのClassiを活用した学習支援を開始しました。開始早々、生徒達は学びの振り返りやその日の出来事を積極的にClassiに記入しはじめました。一方、学校では、教員がオンライン上の生徒の言葉を読み、その生徒の顔を思い浮かべながら、パソコンの画面に向かいコメントを返し続けました。「自宅と学校とに離れているけれど、文字で繋がれるコミュニケーション」の成立により、生徒と教員の絆を取り戻し、短期目標である「学習支援」を達成でき

つつあると判断しました。そして、同時双方向型オンライン授業の推進体制を構築する段階へ移行できると考え、「オンライン授業の早期開始を目指す」と目標を高く設定しました。

##### (3) 同時双方向型オンライン授業の推進体制

#### ○ オンライン授業推進組織

4月中旬、県教育委員会から、ZOOMによるオンライン授業の試行を開始する旨の通知を受けて、オンライン授業の推進組織を速やかにZOOMの利用準備を行う体制に変更しました。教務部教務課がオンライン授業用の時間割を作成し、準備の整った教科から順次開始することになりました。いつでも分散登校や学校全面再開に対応できるように、短期の場合は3日分、長期でも1週間分の時間割を作成し、カリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを回しながら、授業管理を行いました。配信用のパソコンの手配や、ZOOMのミーティングIDの発行については、進路部情報広報課が担

当し、既存の分掌の枠を超えた校務運営を行いました。

## ○ 機器の選定

家庭環境やセキュリティに留意しながら、生徒の家庭のパソコンやタブレット、スマートフォン等、あらゆる機器やWiFi環境等を最大限活用しました。

校内においては、オンライン授業配信のタブレットパソコン



パワーポイントと書画カメラによる  
古典の授業

ンを各学年3台ずつ配備し、それぞれのパソコンに特定のZOOMアカウントを紐付けしました。混乱なくオンライン授業を継続する上で、この「紐付け」が最も重要な運用基盤となりました。加えて、複数台のパソコンやカメラを同時に使用した先進的なオンライン授業を行う場合に対応できるように、Black Magic Design社のAtem Miniを導入しました。

## ○ ソフトウェア

ソフトウェアは、ZOOM MEETINGを使用し、県教育委員会が契約したアカウントを使用しました。接続上限数は300のため、容

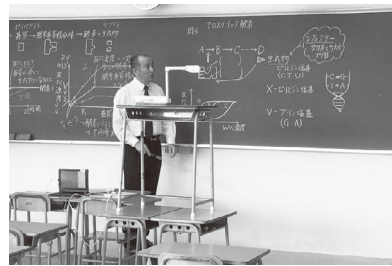
易に学年集会も開催できました。

## ○ IDとパスワードの配信方法

パスワードの有効期限は最長で24時間と規定し、パスワード流出等を防ぐ手立てを講じて運用しました。また、全ての授業において、一度限りのミーティングIDとパスワードの発行を行い、懸念されていたセキュリティ問題に可能な限り対応することにしました。

○ オンライン授業配信管理体制

配信中の全てのオンライン授業を、職員室のパソコンで表示して、配信管理を行う教員を配置し迅速なトラブルへの対応に努めました。



黒板と書画カメラによる  
生物の授業

## 2 今後の課題

5月中旬から6月上旬の「分散登校↓全員登校↓分散登校」の期間は「対面でしかできないこと」と「オンラインでもできること」を見極めながら学習活動を継続しました。

「いつもの先生」、「いつもの友人」と、オンラ

インの戸畑高校に集い、生徒・教職員が文字通り「チーム戸畑」となって乗り切った同時双方向型オンライン授業は、6月上旬現在で214講座となりました。

学校再開後すぐの体育大会に向けた取組はオンラインで始まり、対面で完了しました。7月の結団式は仮設スタジオから配信し、全校生徒は各教室でオンライン上の参加です。生徒自ら段取りを考え見事にやり遂げ、スタジオから自然と湧き上がった拍手は、学校中に響きわたりました。9月4日の体育大会本番には、華麗にダンスを踊り、全力でリレーに汗を流し、教員と生徒が共に競技に参加し大成功に終わりました。この日の笑顔と達成感は教員と生徒のあふれる涙と感動に変わりました。

## おわりに

オンライン授業が、「学びをとめない」ために大きな効果があったことは間違いありません。しかしながら、ICT機器活用の推進や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等、課題はまだ山積しています。今後も本校の協働性を発揮しながら、課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。



# 令和3年度から令和6年度使用中学校用教科用図書の採択の概要と採択結果

## 義務教育課

### 一 採択までの経過

令和3年度から令和6年度に中学校等で使用される教科書が、採択地区ごとに採択されました。採択までの経過は、次のとおりです。

令和2年度	
4月17日	福岡県教科用図書選定審議会委員の委嘱
4月17日	「教科用図書採択基準及び選定資料」について県教育委員会から福岡県教科用図書選定審議会に諮問(書面会議)
4月28日	選定審議会から県教育委員会に対して「教科用図書採択基準及び選定資料」の答申
5月1日	採択基準及び選定資料を市町村教育委員会に送付
5月上旬	各採択地区に教科書見本本が到着
6月12日	各教科書センターにおいて、教科書展示会を実施(14日間)
※ 8月31日までに、各市町村教育委員会において令和3年度から令和6年度に使用する中学校用教科書を採択	

### 二 教科用図書選定審議会

「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」により、県教育委員会は、教科用図書選定審議会の意見を聴いた上で、市町村教育委員会が行う教科書採択に関する事務につ

て、適切な指導助言を行うことになっていきます。審議会の委員は、条例で20名と定められており、また、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令」により、審議会委員は次の中から任命することとされています。(施行令第9条)

- 一 義務教育諸学校の校長及び教員(一号委員)
- 二 学校教育に専門的知識を有する県教育委員会の職員並びに市町村教育委員会の教育長、委員及び指導主事等(二号委員)
- 三 教育に関し学識経験を有する者(三号委員)

今年度の審議会委員及び審議会から答申を受けた採択基準は次のとおりです。

区分	氏名	所属・職名
一号委員	高畑彦	大刀洗町立大刀洗中学校長
	井手真理	朝倉市立十文字中学校長
	志波千春	筑紫野市立筑山中学校教諭
	長家聡	岡垣町立岡垣東中学校教諭
	牧草さおり	小郡市立三国中学校主幹教諭
	松藤芳典	みやま市立山川中学校主幹教諭
二号委員	神崎奈保	苅田町立苅田中学校主幹教諭
	佐々木敏幸	岡垣町教育委員会教育長
	宮川優子	新宮町教育委員会教育長
	小田口順子	北九州市教育委員会指導主事
	瀬村進	福岡市教育委員会学校指導課係長
	野中顕	福岡県教育庁南筑後教育事務所長
三号委員	大神寿	福岡県教育センター教育指導部長
	川端耕一	福岡県議会議員
	大島まな	九州女子大学教授
	松尾剛	福岡教育大学准教授
	秀村香緒留	福岡県PTA連合会副会長
	宗祥子	福岡県立福岡聴覚特別支援学校PTA会長
藤義幸	福岡女学院中学校・高等学校校長	
	松本佳子	福岡県立福岡視覚特別支援学校校長

### 令和3年度使用

義務教育諸学校教科用図書の採択基準

- 一 教育基本法に定める教育の目的及び目標並びに学校教育法に定める義務教育の目標及び学校の目的を有効かつ適切に踏まえたもの
- 二 学習指導要領の定める目標及び内容に即し、適切に教材を構成したもの
- 三 地域の実態を考慮し、児童生徒の発達段階に即し、かつ、指導に際して適切なもの

### 三 教科書採択結果

令和3年度から令和6年度に中学校等で使用する教科用図書について、県内の各採択地区での採択結果は次のとおりです。

## 令和3年度から令和6年度使用中学校用教科用図書採択結果（福岡県）

### 1 市町村（組合）立中学校

	国語		社会				数学	理科	音楽		美術	保健 体育	技術・家庭		英語	道徳
	国語	書写	地理の 分野	歴史の 分野	公民の 分野	地図			一般	器楽			技術 分野	家庭 分野		
発行者数	4社	4社	4社	7社	6社	2社	7社	5社	2社	2社	3社	4社	3社	3社	6社	7社
第一地区	光村	光村	帝国	帝国	帝国	帝国	日文	大日本	教芸	教芸	光村	東書	開隆堂	開隆堂	東書	東書
第二地区	三省堂	教出	東書	東書	教出	帝国	東書	大日本	教芸	教芸	光村	東書	開隆堂	開隆堂	東書	学研
第三地区	光村	教出	日文	帝国	日文	帝国	啓林館	東書	教芸	教芸	光村	東書	教図	教図	東書	東書
第四地区	東書	教出	帝国	帝国	日文	帝国	啓林館	大日本	教芸	教芸	光村	学研	東書	東書	東書	東書
第五地区	光村	光村	帝国	教出	日文	帝国	啓林館	大日本	教芸	教芸	開隆堂	学研	開隆堂	開隆堂	東書	日文
第六地区	光村	光村	帝国	東書	教出	帝国	啓林館	大日本	教出	教出	光村	学研	開隆堂	開隆堂	開隆堂	日文
第七地区	光村	教出	東書	日文	教出	帝国	日文	大日本	教芸	教芸	日文	大日本	開隆堂	東書	開隆堂	東書
第八地区	光村	光村	東書	帝国	東書	帝国	啓林館	大日本	教芸	教芸	日文	大日本	東書	教図	開隆堂	日文
第九地区	三省堂	光村	教出	東書	日文	東書	日文	大日本	教芸	教芸	日文	学研	開隆堂	開隆堂	東書	光村
第十地区	光村	光村	帝国	日文	日文	帝国	日文	大日本	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	開隆堂	東書
第十一地区	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	啓林館	大日本	教出	教出	日文	学研	開隆堂	開隆堂	開隆堂	教出
第十二地区	光村	光村	帝国	日文	東書	帝国	啓林館	東書	教芸	教芸	開隆堂	学研	開隆堂	開隆堂	開隆堂	日文
第十三地区	光村	光村	帝国	教出	教出	帝国	日文	大日本	教芸	教芸	開隆堂	学研	東書	東書	三省堂	教出
第十四地区	光村	光村	帝国	教出	教出	帝国	日文	大日本	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	三省堂	東書
第十五地区	光村	教出	帝国	日文	教出	帝国	啓林館	大日本	教芸	教芸	光村	学研	開隆堂	東書	光村	日文
第十六地区	三省堂	光村	帝国	東書	東書	帝国	啓林館	大日本	教芸	教芸	日文	学研	開隆堂	開隆堂	光村	光村

### 2 県立中高一貫教育校

育徳館中学校	光村	光村	帝国	東書	日文	帝国	数研	大日本	教芸	教芸	開隆堂	大修館	開隆堂	東書	三省堂	東書
門司学園中学校	光村	教出	帝国	帝国	東書	帝国	数研	東書	教芸	教芸	光村	学研	教図	教図	開隆堂	東書
宗像中学校	光村	東書	東書	帝国	東書	帝国	数研	大日本	教芸	教芸	開隆堂	学研	東書	教図	三省堂	光村
嘉穂高等学校 附属中学校	光村	教出	帝国	帝国	帝国	帝国	啓林館	大日本	教芸	教芸	日文	学研	教図	教図	開隆堂	教出
輝翔館 中等教育学校	光村	三省堂	帝国	帝国	育鵬社	帝国	数研	大日本	教芸	教芸	光村	大修館	東書	東書	開隆堂	学研

#### ※ 採択地区構成地域

地区名	構成地域
第一地区	筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市
第二地区	古賀市、糟屋郡
第三地区	宗像市、福津市
第四地区	糸島市
第五地区	宮若市、直方市、鞍手郡
第六地区	中間市、遠賀郡
第七地区	久留米市
第八地区	朝倉市、小郡市、うきは市、朝倉郡、三井郡
第九地区	大牟田市、柳川市、大川市、みやま市、三潞郡
第十地区	八女市、筑後市、八女郡
第十一地区	飯塚市、嘉麻市、嘉穂郡
第十二地区	田川市、田川郡
第十三地区	行橋市、京都郡
第十四地区	豊前市、築上郡
第十五地区	北九州市
第十六地区	福岡市

#### ※ 発行者一覧（上表に記載のあるもののみ）

略称	発行者
東書	東京書籍株式会社
大日本	大日本図書株式会社
教図	教育図書株式会社
開隆堂	開隆堂出版株式会社
三省堂	株式会社三省堂
教出	教育出版株式会社
教芸	株式会社教育芸術社
光村	光村図書出版株式会社
帝国	株式会社帝国書院
大修館	株式会社大修館書店
啓林館	株式会社新興出版社啓林館
数研	数研出版株式会社
日文	日本文教出版株式会社
学研	株式会社学研教育みらい
育鵬社	株式会社育鵬社

# ふくおか学びの応援サイト

# 福岡県教育センター

## 1 教育センターホームページについて

教育センターホームページでは、教育センターで実施している研修・研究・支援各事業の紹介や学習や研修に関する様々なコンテンツの配信とともに、関係教育機関の様々な情報等を発信する等、教育情報プラットフォームとして機能することを目指し、改善を重ねています。

今回は、令和2年4月から配信を開始している「ふくおか学びの応援サイト」について紹介します。

## 2 「ふくおか学びの応援サイト」の紹介

新型コロナウイルスに関連した感染症対策による臨時休業中の子供たちの学習を支援するために今年4月に開設した「ふくおか学びの応援サイト」は、主に2つの機能を持っています。

「学習支援サイトの紹介」ページでは、子供たちの学習を支援する福岡県内や全国のサイトを紹介しています。「学びのサポート資料」ページでは、子供たちが自分の興味や課題に応じて

自主的に学ぶことができるコンテンツをダウンロードできます。

特に、「学びのサポート資料」ページでは教育センターが作成した学びの資料や動画等、子供たちだけでなく先生方や保護者の皆様のニーズに応えるコンテンツ150本以上を配信しています。

ぜひ教育センターホームページを積極的に御活用ください。

【教育センターホームページトップ画面】



**自分で学びを進めてみよう！  
学びのサポート資料**

★福岡県教育センターが作成した、学びの資料や動画などのコンテンツを学校種別、教科別に配信しています。

※保護者のみならず、先生方向けのコンテンツもあります。

**自分で学びを探してみよう！  
学習支援サイトの紹介**

★学びの資料や動画などのコンテンツを提供しているサイトをたくさん紹介しています。

### 学校種などで選択

小学生のみなさん

中学生のみなさん

高校生のみなさん

特別支援教育の学びの資料

保護者のみなさま

学校の先生方

自分で学ぶために！

健康・安全  
けんこう・あんぜん

学校再開に向けて！  
1週間チャレンジ！

### 教科等で選択

国語 こくご

社会 しゃかい

※保護者の皆様、先生方向けのコンテンツもあります。

### 興味あるサイトを選択

「臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイト（子どもの学び応援サイト）」  
文部科学省

「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」  
文部科学省

「学びを止めない未来の教室」  
経済産業省

「臨時休業中の子供たちの家庭学習・生活サポート資料集」  
福岡県教育庁教育振興部 良務教育課

「福岡県 子供の体力向上広場」  
福岡県教育庁教育振興部 体育スポーツ課

「自宅での学び・読書支援」  
福岡県立図書館

「おうちでコスモ」 「おうちでサイエンス」  
福岡県青少年科学館

※御利用の際は、各サイトの利用規約等を御確認ください。



教育センターホームページ  
http://www.educ.pref.fukuoka.jp



# 令和2年度「専門研修（キャリアアップ講座・ミドルリーダー養成講座）」の配信

## 福岡県教育センター

### はじめに

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全ての専門研修が中止になりました。福岡県教育センターでは、「研修」「研究」「支援」の3つを柱として業務を行っています。その中でも「研修」は、教職員一人一人のキャリアステージや職務に応じた資質・能力の育成に大きな役割を果たしております。

そこで、福岡県教育センターでは、ホームページ上に専門研修代替コンテンツとして「オンデマンド講座」を公開しました。本稿では、専門研修代替コンテンツ「オンデマンド講座」について紹介します。

### 1 「オンデマンド講座」について

専門研修申込者だけでなく、広く福岡県の教職員の皆様が自由に研修を受講できるように、実施予定であった専門研修の講座内容を焦点化して動画や資料等で配信しています。パスワードは各学校等に配布されていますので、御確認ください。

#### (1) キャリアアップ講座 75講座

○ 学習指導と評価の力をねらう講座

49講座公開中（全49講座）

○ 生徒指導と集団づくりの力をねらう講座 全13講座公開中

○ 連携と協働力をねらう講座 全9講座公開中

○ 教育公務員に求められる基礎的な能力（事務処理）をねらう講座 全1講座公開中

○ 事務職員（市町村立学校）対象講座

○ 関係教育機関との連携講座 全2講座公開中

○ ミドルリーダー養成講座 全6講座公開中

○ 子供と教師の学びをアップデートする（主体的・対話的で深い学びを実践する）

○ 学校経営参画ミドルリーダー養成講座

○ 生徒指導・教育相談ミドルリーダー養成講座

○ 産業教育推進ミドルリーダー養成講座

○ 特別支援教育ミドルリーダー養成講座

○ 特別支援教育スペシャリストコース

○ 特別支援教育ミドルリーダー養成講座

○ 特別支援学校教諭免許状単位修得コース

### 2 次年度の専門研修について

次年度は、感染症等や災害に影響されることなく全ての講座が確実に実施できるよう準備しています。

オンラインによる研修やICT活用に関するタブレット型情報端末を使用した講座等、左記

の重点を実現できるよう企画していますので、是非、次年度の専門研修にお申込みください。

### 「令和3年度の専門研修講座の重点」

○ ウィズコロナ・アフターコロナ等、喫緊の課題に対応できる講座の充実を図ります。  
 ○ 教職員のICT活用に関する資質・能力を育成する講座の充実を図ります。  
 ○ 教職員育成指標及び教職員の働き方改革を踏まえた、教職員のキャリアステージに応じた指導者としての資質・能力を効果的に育成する講座の実現を図ります。

福岡県教育センターホームページ  
オンデマンド講座 TOP 画面



サイトへはこちらから↑  
<http://www.educ.pref.fukuoka.jp/>

# 「調査研究・特命課題研究」成果の活用 福岡県教育センター

今回は、令和元年度に教育センターで行った調査研究の成果を紹介します。各学校等で、その研究成果をご活用ください。

## 資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントの“15の方策”

カリキュラム・マネジメントの目的は、児童生徒にこれから求められている資質・能力を育成することです。ここでの「資質・能力」とは、平成29年7月に告示された学習指導要領解説 総則編において示されており、これから教科等で育成していくことが期待されています。具体的には、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養の3つです。このような資質・能力を、地域・保護者・教師の願いや児童生徒の実態に応じて設定し育成を図るために、カリキュラム・マネジメントの充実が求められています。

本研究は、小・中学校を対象に、平成29年度から3年間協力校とともに、カリキュラム・マネジメントについて取り組んできました。そこで、明らかになった効果的ないくつかの取組を、「資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントの“15の方策”」としてまとめました。15の方策のうち、5つの方策は、これからはじめようとしている先生方に対して、10の方策は、更に充実させようとしている先生方に対してのものです。また、実際にカリキュラム・マネジメントに取り組まれた先生方のコメント動画も視聴できますので、是非御活用ください。教育センターホームページで公開しています。

・掲載先 HP アドレス  
[http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one\\_html3/pub/default.aspx?c\\_id=569](http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=569)

サイトへは  
 こちらから→



研究成果物のトップ画面

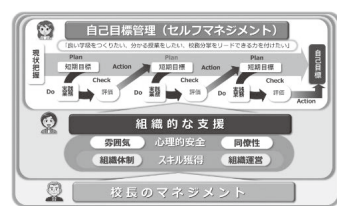
## 教員を「育てる」学校から 教員が「育つ」学校へ

平成30・令和元年度の2年間、調査研究協力校10校の協力を得て「教員は学校で育つ！目標と評価を生かしたOJT」を主題として掲げ、調査研究に取り組みました。

明らかになったことは、人材育成を「育てる」「育てられる」の一方向的な視点で捉えるのではなく、教員全員が育つ学びの主体者として自覚をもち、教員自らが成長しようとする学校としての仕組みや状況を、校長のマネジメントを基につくりだすことが重要であるということです。OJTに有効な考え方や具体策を、「自己目標管理」「組織的な支援」「校長のマネジメント」の三つの側面に整理し、それぞれの知見と共に実践事例を成果物としてまとめました。本研究が「自ら成長する教員が育つ学校づくり」の一助になることを願っています。

・掲載先 HP アドレス  
[http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one\\_html3/pub/default.aspx?c\\_id=570](http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=570)

サイトへは  
 こちらから→



研究成果物のトップ画面

## 児童生徒の人間関係形成能力を高める学級経営

人間関係づくりチームでは、学級経営を通じた児童生徒一人一人の人間関係形成能力を高める方途について究明したいと考えました。そこで、研究主題を「児童生徒の人間関係形成能力を高める学級経営」として、福岡教育大学教職大学院教授 小泉令三氏、脇田哲郎氏の助言を得ながら、調査研究を進めてきました。学級経営は、教師の感覚とともに調査等の客観的データの分析に基づく児童生徒への教育的な働きかけが重要です。

その客観的データの分析に役立つのが、本研究の成果物です。アンケートの実施から個人票、学級帳票の作成まで簡単にできる人間関係形成要素実態分析ツール「FRT」を開発することができました。

アンケートは4件法で20問余りですから、中学生であれば、5分程度、小学生でも10分以内で実施できます。回答をエクセルシートに入力すると、個人票と、学級の傾向がわかる帳票が瞬時に示されます。結果を受けて担任の先生が感じている一人一人の児童生徒の実態と児童生徒の自己評価を比べてみてください。多くの気づきがあると思います。本年度、既に県内小中学校の活用があり、好評を得ております。是非御活用ください。

- 掲載先 HP アドレス  
[http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one\\_html3/pub/default.aspx?c\\_id=571](http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=571)

サイトへは  
こちらから→



研究成果物のホームページ画面

## 福岡県立学校『新たな学びプロジェクト』

「福岡県立学校『新たな学びプロジェクト』」の事業を推進するために、県立学校における「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の実現に向け、支援を行っています。6年目を迎える本年度は「ICTを活用した新たな学びを提案しよう」をスローガンに、今後求められる資質・能力を育成するためICTをどのように活用していくのかを主眼として各取組を行っています。

その中で、特に以下の2点を紹介します。

### ① 地区版実践発表会と研究協力校発表会のオンライン開催

本プロジェクト推進のため、毎年、指定を受けた研究実践校で、地区版実践発表会を行っています。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行うとともに、ICT活用に関するスキルを高めることを目的に地区版実践発表会をオンラインで実施することにしました。

また、研究実践校を支援する役割を持つ、研究協力校の発表会を12月23日に実施しました。研究実践校とは異なるスタンスで授業改善の取組を行っている研究協力校の取組を、オンラインでお伝えしました。

### ② スタッフログの開設

当センターや各県立学校での取組等を紹介し、現場教員のもつ課題や悩みの解決に伝えるため、本年度の7月に、教育センターホームページに「新たな学びスタッフログ」という新コーナーを設けて、週に1回のペースで更新をしています。



スタッフログの画面

- 掲載先 HP アドレス  
[http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one\\_html3/pub/default.aspx?c\\_id=452](http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=452)

サイトへは  
こちらから→



### 各発表会の日程

○地区版実践発表会	
門司学園高等学校	12月10日
中間高等学校	12月4日
須恵高等学校	12月11日
太宰府高等学校	12月18日
朝倉高等学校	12月16日
○研究協力校による研究発表会	12月23日



# INFORMATION お知らせ

## 教職員課

### 県立学校の臨時教員等登録制度

県立の高等学校及び特別支援学校の常勤講師、非常勤講師、養護教諭(期限付)、実習助手(期限付)、寄宿舎指導員(期限付)の希望者の登録を受けています。

**資格**：講師、養護教諭(期限付)については、登録を希望する種別 教科の教育職員免許状を有すること。

**手続**：教職員課県立学校係で配布している志願書に必要事項を記入し、写真貼付の上、同係に提出してください。

※志願書は福岡県のホームページからダウンロードすることもできます。  
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/>

**給与**：常勤講師は経験に応じて月額19万3000円程度(別途各種手当、社会保険等有)です。非常勤講師は学校種別等により異なります。

#### 【問い合わせ先】

福岡県教育庁教職員課県立学校係

TEL 092(643)38893  
FAX 092(643)38896

## 文化財保護課

### 甘木歴史資料館新春企画展

「霊峰への憧れやまず」

～郷土の日本画家・徳田玉龍(Final)～

朝倉市甘木出身の日本画家・徳田玉龍は、日韓併合期に朝鮮に渡って金剛山を舞台に活躍し、帰国後は富士山に傾倒。生涯を通じて霊峰に憧れ続けた画家でした。平成27年度から継続するシリーズ展は、今回が最終回。館外所在作品など初出展作品も多く展示し、これまでの調査成果をまとめます。激動の時代を生きた画家の軌跡をご覧ください。

会期：令和3年1月9日(土)～3月14日(日)

\*月曜休館(祝日の場合は翌平日)

会場：甘木歴史資料館

開館時間：9時30分～16時30分(入館は16時まで)

観覧料：無料

#### 【問い合わせ先】

甘木歴史資料館

〒838-0068 朝倉市甘木2661の2  
TEL・FAX 0946(22)7515

ホームページ <http://www.city.asakura.lg.jp/ama-reki/>

## 社会教育課

### 福岡県立「ふれあいの家南筑後」廃止

施設の老朽化などにより、ふれあいの家南筑後(八女市山内)を令和3年4月1日(木)に廃止します。

長年に渡り、多くの方々に当施設をご利用いただきまして、誠にありがとうございました。

なお、令和3年3月31日(水)までは引き続きご利用いただけます。

#### 【問い合わせ先】

福岡県教育庁社会教育課

TEL 092(643)38886  
FAX 092(643)38889

ホームページ <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/r3-fureai-minamichikugo.html>

## 福岡県体育研究所

### 福岡県体育・スポーツ研修報告会

日 時：令和3年2月19日(金)  
9時30分～16時00分(9時受付開始)

会場：福岡県立スポーツ科学情報センター

参加費：無料

研修報告：体育・スポーツ関係機関及び団体が本県の体育・スポーツの充実・発展に向けて取り組んだ研究の成果等を報告します。

講演：「教えるということ」

講師：日本体育大学 筒井 崇護 教授  
(ソウル五輪野球日本代表主将 銀メダリスト)

詳しい内容等につきましては、学校宛ての文書又は当所ホームページをご覧ください。

#### 【問い合わせ先】

福岡県体育研究所

TEL 092(611)02220  
FAX 092(611)1747

ホームページ <http://www.taiikukenk.yusho.ed.jp>

## 福岡県立図書館

### 福岡県立図書館・放送大学 コラボ講演会

期 日：令和3年1月31日(日)

内容：14時00分～16時00分(受付13時30分)  
「働き方の変化とモチベーション論」

講師：九州大学大学院人間環境学研究院 池田 浩 准教授

対象：一般

参加費：100名(先着順)

参加費：無料

会場：福岡リーセントホテル 2F 舞鶴の間  
(〒812-0053 福岡市東区箱崎2-52-1)

申込方法：必要事項を記入の上、Webフォーム FAX又はハガキにて申込み。

Webフォーム [https://www2.lib.pref.fukuoka.jp/?page\\_id=940](https://www2.lib.pref.fukuoka.jp/?page_id=940)

(定員を超えた場合は、受講できない方のみ連絡します)

申込締切：令和3年1月20日(水)

## 読書推進講演会

期 日：令和3年2月13日(土)

13時30分～15時30分(受付13時00分)

内容：「本と本屋と図書館の愛しむかた」

講師：ライター 永江 朗 氏

対象：一般及び九州・沖縄県の図書館関係者

定員：100名(先着順)

参加費：無料

会場：福岡リーセントホテル 2F 舞鶴の間  
(〒812-0053 福岡市東区箱崎2-52-1)

申込方法：必要事項を記入の上、Webフォーム FAX又はハガキにて申込み。

Webフォーム [https://www2.lib.pref.fukuoka.jp/?page\\_id=365](https://www2.lib.pref.fukuoka.jp/?page_id=365)

(定員を超えた場合は、受講できない方のみ連絡します)

申込締切：令和3年1月29日(金)

#### 【申込み及び問い合わせ先】

福岡県立図書館 総務企画室企画広報班

〒812-8651 福岡市東区箱崎1-41-12  
TEL 092(644)12339  
FAX 092(644)11227

## 九州歴史資料館

### 企画展「ユネスコ「世界の記憶」登録3周年記念

黒田家文書「朝鮮人來聘記・帰国記」修理完成記念

「朝鮮通信使と福岡」

—福岡県朝鮮通信使総合調査成果展—

内容：黒田家文書の「世界の記憶」登録3周年と修理完成を記念し、世界の記憶に登録された15冊を公開するもので、あわせて県内で登録された小笠原文庫の資料も展示します。

開催日：令和2年12月12日(土)～令和3年2月14日(日)

開催時間：9時30分～16時30分(入館は16時00分まで)

休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、  
年末年始（12月28日～1月4日）  
観覧料：一般210円（150円）  
高校生150円（100円）  
中学生以下無料

- ※（一）内は20名以上の団体料金
- ※ 障がい者とその介護者1名は無料。
- ※ 満65歳以上の方は無料。
- ※ 土曜日は高校生も無料。

●企画展「古代・中世の人々と暮らし」

内 容：古代・中世の絵巻物などに表現された生活の道具に注

目し、実際に遺跡から出土した類似の遺物を展示し  
て、当時の人々の暮らしについて考えます。

開催日：令和2年12月1日（火）～令和3年3月21日（日）

開催時間：9時30分～16時30分（入館は16時00分まで）

休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、  
年末年始（12月28日～1月4日）

観覧料：無料

●特集展示「北部九州の経塚遺宝

～京都国立博物館考古資料相互貸借展～

内 容：11世紀後半から12世紀にかけて、経塚造営が盛んにおこ  
なわれ、福岡は九州の一大中心地でした。京都国立博  
物館考古資料相互活用促進事業の借用品と当館蔵品を  
中心に経筒や外容器などを展示します。

開催日：令和2年12月12日（土）～令和3年2月28日（日）

開催時間：9時30分～16時30分（入館は16時00分まで）

休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、  
年末年始（12月28日～1月4日）

観覧料：一般210円（150円）  
高校生150円（100円）  
中学生以下無料

- ※（一）内は20名以上の団体料金
- ※ 障がい者とその介護者1名は無料。
- ※ 満65歳以上の方は無料。
- ※ 土曜日は高校生も無料。

「問い合わせ先」

九州歴史資料館 学芸調査室 広報普及班  
〒83380106 小郡市三沢52083  
TEL 0942(75)9501  
FAX 0942(75)7834

入館の際は体温測定・マスク着用・手指消毒・連絡票記入にご協  
力ください。

放送大学福岡学習センター

自宅で学べる「放送大学」— 学生募集

放送大学は、BS放送やインターネットを通して学ぶ文部科学  
省・総務省所管の通信制の大学です。

〔大学院・教養学部〕

・特別支援学校教諭二種免許状や、専修免許状等上位免許状取得に  
利用できます。

・心理や教育、福祉などの幅広い分野から、大学院は約80科目、教  
養学部は約300科目を学ぶことができます。

〔2021年度第1学期学生募集期間〕

・第一回 令和2年11月26日（木）～令和3年2月28日（日）

・第二回 令和3年3月1日（月）～令和3年3月16日（火）

〔資料請求・問い合わせ先〕

放送大学福岡学習センター  
〒8160811 春日市春日公園6-1  
(九州大学筑紫キャンパスE棟4・5階)  
TEL 092(585)3033  
FAX 092(585)3039

サイエンスラボふくおか  
福岡県青少年科学館




新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種教室・イベ  
ント等を中止・延期する場合があります。  
最新の情報は、お問い合わせいただくか、公式サイトでご確  
認ください。

春の特別展

「いきものハンター」～ジャングルの生態系を調査せよ～

〔期間〕 3月6日（土）～5月5日（水・祝）

〔内容〕 舞台はジャングル。探検するキミは「いきものハン  
ター」だ！身体を動かし、体験をしながらジャング  
ルのいきものについて学ぶことができる特別展です。

星空教室

①②冬の星座、③春の星座

〔期 日〕 ①1月23日（土）、②1月30日（土）、  
③3月13日（土）



〔時 間〕 10時30分～12時00分  
〔会 場〕 1階コスモシアター、2階工作室  
〔対 象〕 小学生以上（今回は幼児の同席は不可）  
〔参加費〕 100円  
〔定 員〕 各8組（最大24名）  
〔受付開始〕 ①12月23日（水）、②1月5日（火）、  
③2月13日（土）  
〔内 容〕 季節のおもな星や星座のさがし方、星座早見の使い方  
をわかりやすく紹介します。また、プラネタリウム  
で星座さがしが体験できます。

巡回パネル展

「こちら「はやぶさ2」運用室 漫画版

〔期 間〕 1月28日（木）～2月13日（土）

〔会 場〕 1階特別展示室  
〔内 容〕 小惑星探査機「はやぶさ2」のミッションを漫画でゆ  
るりと紹介します。

星と音楽の夕べ

「バレンタインコンサート」

〔期 日〕 2月13日（土）

〔時 間〕 18時30分～20時00分（18時00分開場）

〔対 象〕 小学生以上（未就学児の入場はご遠慮ください。小・  
中学生は保護者同伴）

〔参加費〕 一般620円、児童・生徒310円  
〔受付開始〕 1月13日（水）

〔内 容〕 「星と音楽の夕べ」では、プラネタリウムで「星空巡  
り」と「生演奏のコンサート」をお楽しみいただけ  
ます。

「問い合わせ先」  
福岡県青少年科学館

TEL 0942(37)5566  
FAX 0942(37)3770  
ホームページ <http://www.science.pref.fukuoka.jp/>



このマークのある教室や催しは、予約が必要です。  
受付開始日の9時30分から電話または直接来館の上、  
先着順に受け付けます。  
参加費のほかに入館料が必要で  
す。ただし、土曜日は高校生以下の入館料は無料です。

## 経筒

## 四王寺山経塚出土

(平安時代・十二世紀)



写真1 銅製経筒  
九州歴史資料館所蔵



写真2 銅製経筒  
福岡県立筑紫丘高等学校所蔵



写真3 陶製経筒  
福岡県立筑紫丘高等学校所蔵

平安時代のおわり、人びとは戦乱の勃発や疫病の流行、災害の発生のおそれ、この世の終わりが来たのではないかと危機感を強めました。そのような中で唱えられたのが「末法思想」でした。お釈迦さまが亡くなってから時が経つにつれて、その教えが次第に伝わりにくくなり、暗黒の時代「末法」の世が到来するといわれています。当時の日本では、永承七年（一〇五二）から末法に入ると考えられていました。九州では、その前後に太宰府天満宮・観世音寺や宇佐宮弥勒寺が焼亡し、筥崎宮が倒壊するという大惨事が続き、危機意識が高まりました。苦境に立たされた人びとは、お釈迦様の教えである経典を土中に埋めて未来へ伝えようとなりました。それは、お釈迦様が亡くなってから五十六億七千万年のうち、その後継者である弥勒如来が私たちの前に現れ、説法により人びとを救済するという弥勒信仰に基づいたものです。そこで、人びとは説法に必要な経典を書いた上で経筒に納めて地中に埋め経塚を造営しました。特に十一世紀末から十二世紀前半にかけて、九州北部では多くの経塚が造られました。なかでも太宰府市・大野城市・宇美町にまたがる四王寺山は、経塚文化の一大拠点でした。

大切な経典を納めるための経筒は、銅製のものや陶製のもの、石製のものがあります。銅製経筒にはさまざまな形のものがあり、特に竹のように節があるものを「四王寺型」経筒（写真1・2）と呼んでいます。陶製経筒（写真3）は中国で作られて日本に輸入されたものです。埋納の際には、これらの経筒を石製の外容器や須恵器の甕かめに入れたり、経筒の周りを瓦で囲んだりして、法華経をはじめとした経典を未来へ守り伝えようとしたのです。

本品は、令和二年十二月十二日（土）〜令和三年二月二十八日（日）開催の九州歴史資料館特集展示「北部九州の経塚遺宝」にて展示いたします。今回は京都国立博物館が所蔵する福岡県出土の経筒の数々も出品されます。この機会にぜひご覧ください。